

【急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスの目的】

急性呼吸器感染症(ARI) の定義に合致する症例数及び収集された検体又は病原体から、各感染症の患者や病原体等の発生数を集計し、国内の急性呼吸器感染症(ARI)の発生の傾向(トレンド)や水準(レベル)を踏まえた、流行中の呼吸器感染症を把握する。また、新興・再興感染症の発生を迅速に探知する。

【急性呼吸器感染症(ARI)の症例定義】

咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例。

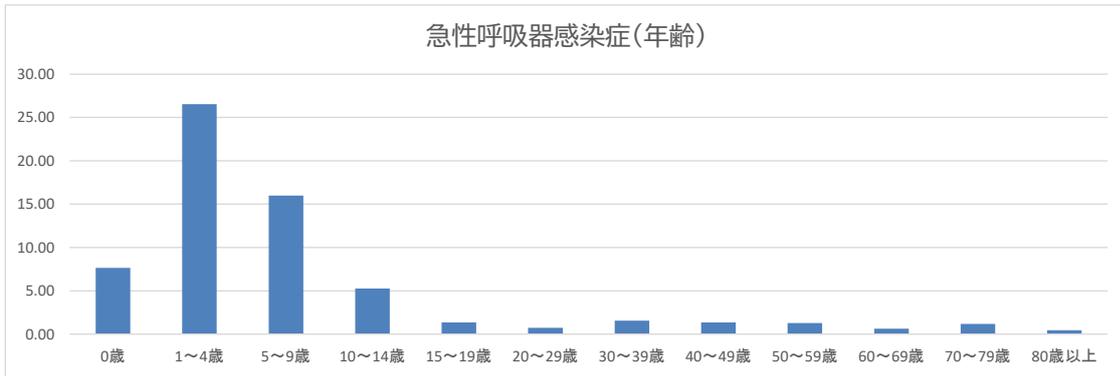
< 定点把握対象感染症発生状況(定点医療機関あたり患者数) >

急性呼吸器感染症定点(11医療機関)		※15週は10医療機関の定点報告となっています。									
疾病名称		2025年									
		7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週
		2/10~	2/17~	2/24~	3/3~	3/10~	3/17~	3/24~	3/31~	4/7~	4/14~
急性呼吸器感染症		急性呼吸器感染症(ARI)定点 15週(4/7~)開始								59.70	64.00

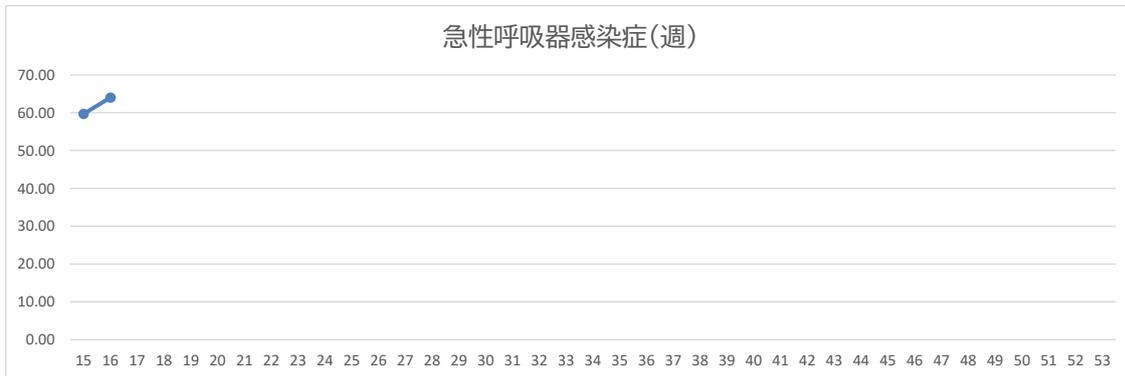
急性呼吸器感染症定点(11医療機関)		※15週は10医療機関の定点報告となっています。									
年齢階級		2025年									
		7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週
		2/10~	2/17~	2/24~	3/3~	3/10~	3/17~	3/24~	3/31~	4/7~	4/14~
【急性呼吸器感染症(ARI)定点の対象疾患の範囲】 具体的にはインフルエンザ、COVID-19、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、新たに五類感染症に位置づける「急性呼吸器感染」を対象疾患とする。	0歳									8.30	7.64
	1~4歳									26.70	26.55
	5~9歳									9.40	16.00
	10~14歳									6.40	5.27
	15~19歳									1.50	1.36
	20~29歳									0.80	0.73
	30~39歳									1.60	1.55
	40~49歳									1.30	1.36
	50~59歳									0.60	1.27
	60~69歳									0.80	0.64
	70~79歳									0.60	1.18
80歳以上									1.70	0.45	

急性呼吸器感染症(ARI)定点  
15週(4/7~)開始

急性呼吸器感染症発生状況(年齢) 2025年第16週



急性呼吸器感染症発生状況(週)



# 基本的な感染対策を！

ひやくにちせき

# 百日咳

# が流行

# しています



## 最近の流行状況

### 【明石市】

令和5年 0人、令和6年 6人、令和7年(1/1～4/18) **7人**

※事務処理上、感染症発生動向調査と数が異なります。

### 【兵庫県】

令和5年 50人、令和6年 207人、令和7年(1/1～4/13) **404人**

令和7年4月13日時点で、  
昨年1年間の発生件数を大きく上回っています（右表）。



(出典)兵庫県感染症発生動向調査週報 第15週

## Q 百日咳ってどんな病気？

- A** 百日咳は、百日咳菌による感染症です。非常に感染力が強く、一年を通じて発生がみられます。子どもを中心に流行し、激しい咳発作を伴います。乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあり、生後6か月未満では死に至る危険の高い病気です。成人では、比較的軽い症状で経過することが多いため、受診・診断が遅れ、感染源になることがあります。周りに乳児がいる場合は特に注意が必要です。

## Q どうやって感染する？症状や治療法は？

- A** 主に、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌によって感染します（飛まつ感染）。潜伏期間は7～10日程度です。

カタル期（約2週間）：風邪症状がみられ、徐々に咳が強くなっていきます

痙咳期（約2～3週間）：短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるという症状を繰り返します

回復期（約2～3週間）：激しい咳は徐々におさまりますが、時折、発作性の咳がみられます

治療は、生後6か月以上の場合、抗菌薬による治療が検討されます。また、咳が激しい場合は咳止め等の対症療法が行われます。

## Q 予防方法は？

- A** ○飛まつ感染のため、手洗いやマスクの着用、咳エチケットなど基本的な感染対策が重要です。  
○5種混合ワクチンの接種が有効です。定期予防接種が行われていますので、生後2か月に達したら、計画的に5種混合ワクチンを接種しましょう。